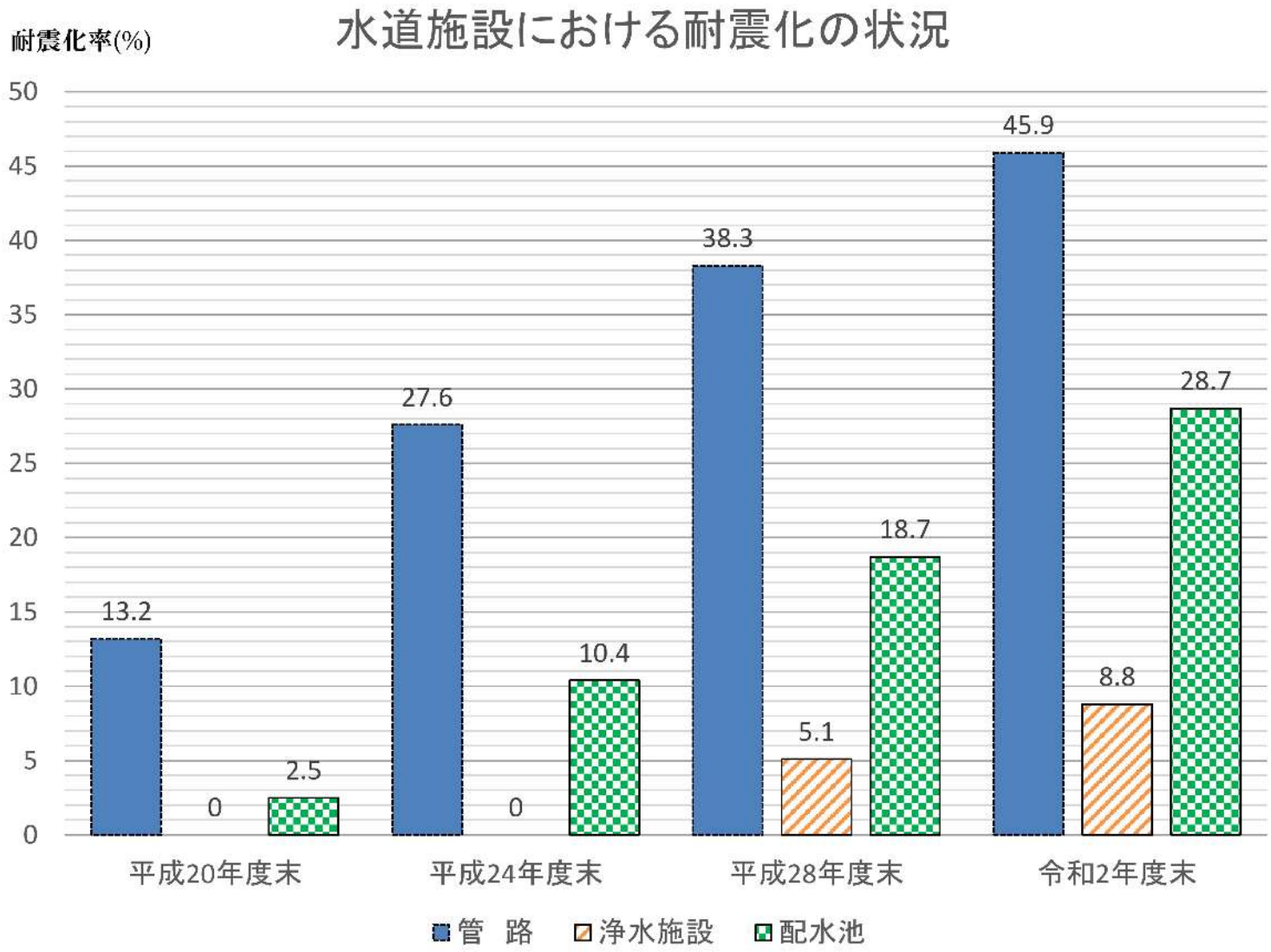
（２）施設の老朽化と耐震化の状況

- 水道施設は、全体的に老朽化が進んでいる。更新時に耐震化を進め強靭化、高度化を図る。
- 更新費用（建設改良費）には限度があり、優先順位を付けて計画的に実施。



管　路

平成20年度から令和2年度までの12年間で耐震化率が32.7%上昇している。全国平均の管路更新率は年間1%未満であるため、管路更新率は全国的にみても高い。しかし、全国で17番目に早く水道事業を創設したため、1960年代に布設した管路が未だ存在しており、全管路のうち3割は耐用年数（40年）を超過している。管路延長では平成24年度末に381kmあったが、令和3年度末には362kmと19kmの削減を行った。

浄水施設

主たる浄水場である「来宮浄水場」「宮川浄水場」は築造から60年を迎える施設であり、浄水機械の劣化が著しく部品調達も困難な状況であり、更新が急務となっている。しかし、浄水場の更新には莫大な工事費が必要であるため管路や配水池に比べ耐震化や老朽化対策が進んでいない状況である。

配水池

熱海市は急傾斜地が多く、入り組んだ地形的特性から配水池の数が100ヶ所を超え、県内最多（政令市を除く）である。築造後40年を経過した配水池の数は78ヶ所に上る。配水池の更新には多くの費用を必要とするほか、工事期間に2カ年程要するため、耐用年数60年までの更新は困難であり、今後の更新の遅れに伴って老朽化した配水池が増加する恐れがある。